

第2学年 英語科学習指導案

日 時 平成20年11月20日(木) 5校時
学 級 2年A組 男子17人, 女子14人 計31人
授業者 梶 本 文 恵

1 単元名 Unit 5 A Park or a Parking Area? (New Horizon English Course II)

2 単元について

(1) 学習内容の概観

本単元は、身近な地域の問題が話題の中心となる。ある事故から「公園を維持するか、駐輪場にするか。」という議論が起こり、新聞に取り上げられたり、新聞の投書欄に意見が掲載されたりする。ここでは、事実を伝えたり、自分の意見を述べたりするという場面が設定されている。本校の生徒にとって、自分の意見を述べることは得意なこととはいえませんが、2年生段階で可能な限りで、「賛成か、反対かを述べ、その理由を言う。」ことができるようにさせたい。「自分の意見を述べる。」などに適した教材である。

言語材料としては、従属接続詞とthat節を扱う。以前学習した接続詞の復習をし、新出の従属接続詞は、文の形や意味、用法を理解させ、文と文のつながりも指導する。最終的に接続詞を使って話したり、書くことができるようにさせたい。また、that節では、自分の意見を述べたり、書くことができるようにさせたい。

(2) 生徒の実態

積極的な男子とおとなしい女子という印象があるが、英語の学習に対しては男女とも概ね熱心に取り組んでいる。授業中に挙手をする生徒は固定化してきているが、指名すると答えられる生徒は多い。個々の生徒の実態を見てみると、英語の得意な生徒と不得意な生徒の学力差はあるものの、英語が不得意な生徒でも、答えられる質問には答えたいと挙手し、少しでも英語の力を伸ばしたいという気持ちを持っている。

(3) 指導の構想

従属接続詞が従属節の頭について、主節と結び付ける役割をするということを学習する。生徒にとっては2文がくっつき、どちらが主節で、どちらが従属節であるか、ということが理解しがたいと思われる。接続詞を使って、2文を適切に意味の通るように結び付けるゲームを取り入れたり、文の意味から、主節と従属節を考えさせたりするよう工夫し、形・意味・用法の定着を目指したい。また、口頭練習を多く取り入れ、生徒が自信を持って言語活動に取り組み、自分の意見を述べたり、対話することができるようにし、最後には自己表現で書く活動を行いたい。

(4) 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るための本単元での取組

本単元の指導については、次の点を工夫する。

- ① ポイントカードのチェック・・・予習・復習を行っているかポイントカードでチェックする。
- ② 小テストの実施・・・既習事項の定着を図る。

- ③ 十分な口頭練習の時間をとる・・・何度も声に出して練習させる。飽きさせないように工夫する。
- ④ 次時の小テストの予告・・・本時の内容を家庭学習で復習することで定着を図る。

3 単元の目標

- (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- ・ 新出表現を用いて、積極的に自分の考えを伝えようとする。
- (2) 表現の能力
- ・ 新出表現を用いて、身近なことについて簡単な対話をすることができる。
 - ・ 基本文を用いて、自分の考えや情報を口頭で伝えたり、書いたりすることができる。
- (3) 理解の能力
- ・ 本文の内容を理解することができる。
 - ・ CDを聞いて、リスニングポイントについて聞き取ることができる。
- (4) 言語や文化についての知識・理解
- ・ 基本表現の形・意味・用法を理解している。
 - ・ 接続詞やthat節を含んだ文の形を理解している。

4 単元の評価規準と指導計画

単元	学習内容	時数	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化に対する知識・理解
UNIT 5	Starting Out	1				if節を用いた文の形・意味・用法を理解している。
		1		if節を用いて英語で話すことができる。	リスニングポイントについて聞き取ることができる。	
	Dialog	1 本時		I thinkの文を用いて自分の考えを話すことができる。	本文の内容について聞き取ることができる。	that節を用いた文の形・意味・用法を理解している。
		1		that節を用いて、自分の思っていることを書くことができる。		
	Reading for Communication	1			本文の内容について読み取ることができる。	when節を用いた文の形・意味・用法を理解している。
		1	言語活動に積極的に取り組み、相手から情報を得ようとする。	when節を用いて、話すことができる。		
		1			本文の内容について読み取ることができる。	because節を用いた文の形・意味・用法を理解している。

	1	言語活動に積極的に取り組み、相手から情報を得ようとする。	because節を用いて、話すことができる。		
まとめ	1		従属接続詞を用いて、適切な文を作ることができる。		従属接続詞用いた文の形・意味・用法を理解している。

5 本時について

(1) 本時の目標

- ・ I think～. の文を用いて、自分の考えを話すことができる。【表現の能力】
- ・ 本文の内容を聞き取ることができる。【理解の能力】
- ・ I think～. 文の形・意味・用法を理解している。【言語や文化に対する知識・理解】

(2) 指導の構想

本時の目標を達成するために、以下の点に留意して指導する。

- ① 前時に学習したことを小テストで確認し、既習事項の定着を図る。
- ② 口頭練習の時間を十分に確保し、その後の言語活動に自信を持って取り組むことができるようにしていく。
- ③ 口頭練習を十分に行った後、文型の確認をしながら書く活動につなげ、自己表現の能力の向上につなげていきたい。

(3) 具体的評価規準と評価方法

観 点	具体的評価規準		努力を要する生徒の指導の手立て	評価方法
	A	B		
表現の能力	I think～.を用いた英文を正確に話すことができる。	基本本文を参考にしながら、I think～.を用いた英文を話すことができる。	ヒントを与え、I think～.を用いて英文を話すことができるようにする。	対話練習の場面（観察・ワークシート）
理解の能力	本文の内容を正確に聞き取ることができる。	本文の内容を大まかに聞き取ることができる。	語句や絵などのヒントから、本文の内容を聞き取らせる。	リスニングの場面（ワークシート）
言語や文化に対する知識・理解	I think～.を用いた文の形・意味・用法を正確に理解し、自力で問題を解くことができる。	I think～.を用いた文の意味が分かり、基本本文を参考にしながら問題を解くことができる。	机間指導をしながら、語句等のヒントを与える。	ワークシート

(4) 展開

過程	学習内容・学習活動	指導及び支援の手だて	評価
導入	1. Greeting 2. Warm up 3. 前時の復習 4. 小テスト 【基礎・基本の定着】 5. 学習課題の提示 ① オーラルイントロダクション ② 学習課題の提示	<ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した教科書本文の音読をする。 前時に学習した重要文、単語をテスト間違えた単語は即練習させる。 教師の話す英文を聞きながら、内容を予想する。 	
10	自分の考えを述べよう		
展開	6. 新出文型の確認 7. 新出文型の練習 8. 教科書本文の内容理解 ① 新出単語の確認 ② 本文の内容理解 ③ 音読 9. 言語活動 【生徒同士の関わり】 ・ I think～. What do you think? I don't think～. What do you think? I think so, too. / I don't think so. を用いて、インタビューを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 「私は～だと思ふ/～だと思わない」という言い方、文の形、意味を説明する。 PCを使ってパンプラクティスを行う。 テンポよく進める。 新出単語を確認する CDを聞いて本文の内容を聞き取る。 できるだけ下位の生徒に支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を聞き取れているか。【理解】 自分の考えを話せているか。【表現】
30			
終末	10. 本時のまとめ 11. 次時の予告 12. Greeting	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解き、本時の学習の確認をする。 次時について予告する。 	<ul style="list-style-type: none"> I think～.を用いた文の形・意味・用法を理解できているか。【知識・理解】
10			